令和６年２月１７日（土）

協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、ＮＰＯ・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる令和５年度報告会を実施しました。

１　日時・場所

・令和６年２月１７日（土）　午後１時００分～３時００分
・市民交流施設ぷらっと交流サロン（江別市東野幌本町 6 番地 43）

２　プログラム

●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告
報告団体（報告順）
①特定非営利活動法人つながり
②ＮＰＯ団体おんくりの輪

●事業報告会コメンテーター

（写真左から）
新田　雅子 氏　（札幌学院大学 人文学部人間学科　准教授）
村瀬　　脩　氏　（江別市自治会連絡協議会　会長）
栗田　敬子 氏　（特定非営利活動法人エコ・モビリティ サッポロ　理事長）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① 特定非営利活動法人つながり

「ママの夜会」

〈事業報告〉

現在、働くママたちのコミュニティは職場以外にない方が多い。繋がりたくても繋がれない。相談できる相手、話せる相手がいるだけで解決できることはたくさんあるが、ほとんどの子育てサロンは日中で働くママは参加できない。そこで、今回の事業は、仕事終わりの夕食に合わせて、料理上手な地域のパパなどにお願いし、食事を準備。参加した子どもたちにも手伝ってもらい、ママたちは料理を食べながら、子どもは食事後、大学生に遊んでもらう。親子で楽しくつながりを作ってもらうという目的で開催している。

本事業の対象となるママの夜会は予定通り全 3 回開催しました。1 回目の開催時には、サードプレイスと呼ばれる第 3 の居場所について、どのような点が大事かお話をしました。子どもたちときゅうりの浅漬けとおにぎりを作り、ママにありがとうと言いながら手渡してもらうようなこともしました。2 回目は、子育ての講演活動やベビーシッター業務をされている、一般社団法人ぴんぽんはーとの魚岸あや子さんをお呼びし、子育てミニ講話をして頂きました。この時も、子ども達と一緒におにぎりを作り過ごしました。3 回目は、餃子をメイン料理にし、子どもたちと一緒に作って食べました。この時には、7 家族にお越し頂きました。

アンケート結果では、住まいについては、駐車場を確保したことで、離れた場所から来られた方

もいた。年齢は主に 30 代と 40 代だったが、特に 30 代の方が多かった。動機は、お母さん同士の交流目的に来られた方はもちろん、子どものコミュニティ作りや、自分だけではなく子どもも楽しめそうだったからという意見があった。

感想は、ママ同士でお話が出来てよかったという意見を頂いたが、他にもゆっくりご飯を食べられた、ゆっくり食べながらお話できたという意見があり、子育て中のママはゆっくり食べる時間もないことが分かった。これは子育てしているお母さんたちであれば共感できる部分かと思う。子どもと一緒におにぎり作ったり、餃子を作ったりしたが、これが良い経験になり、楽しかったという意見も頂いた。

メニューについては、1 回目は、シュウマイをメインとし、2 回目は鮭のちゃんちゃん焼き、3 回目は餃子を作った。

食材の寄付については、おんくりの輪から、毎回、お米の寄付を頂いた。これによって、予算を大幅に削減することができた。2 回目は、江別や札幌で農家をされている「ときの森 衣食住」からジャガイモとサツマイモの寄付。また、石狩市の漁師の方から鮭の寄付を頂いた。これにより、鮭のちゃんちゃん焼きを作ることができた。当団体のスタッフから玉ねぎの寄付も頂いた。3 回目は、ご近所の方から何か欲しいものないか言って頂いたので、豚のひき肉を使った餃子を作ろうと思い、豚のひき肉の寄付を頂いた。

事業評価として、日中働いているママがたくさん来てくれた。金曜日の夜に設定したのも良かったと思う。また、駐車場を確保できたおかげで、ご近所からだけでなく、遠くから来られた方もおり、広い範囲を対象に活動することができた。食材費も、さまざまな方にご協力いただけたおかげで、予定額より大幅に削ることができた。

今回の夜会をきっかけにママ同士が繋がり、実際にママの夜会以外の場所で交流が生まれた方もいたので、本来目指している活動の目的が形になってきていると感じている。

今後については、SNS 等で連絡先を交換した方が、その後連絡を取り合い交流が始まったケースもあるが、場を設けるだけでは、ママ同士繋がるハードルは高い。お友達経由ではないママになると孤立しがちなので、間に入ってコーディネートする方が必要と考えている。次年度は、子育ての悩みや相談ができる方に協力頂き体制を整える予定。

仲間内の閉じた集いの場はあるが、オープンな働くママでも集える場は、市内には少ないと思うので、来年度も継続して行っていく予定。ママの夜会だけでは、つながるのは難しい為、法人の親子イベントにも声掛けながら、何度か顔を合わせるうちに仲良くなってもらえればと考えている。一人でも多くのママが心許せる友に出逢えるように法人としてもチャレンジしていきたい。

・会場　おんくりの家（大麻扇町商店街）

開催日等	7/21	10/20	1/19
参加者数	７家族 ママ７名 子ども１３名	９家族 ママ９名 子ども１４名	７家族 ママ７名 子ども１１名

【参加者の声】

🗣：ママ同士でお話が出来てよかった。

🗣：子育て中のママはゆっくり食べる時間もないことがゆっくり食べながらお話できた。

という評価をいただけた。

【新たな取組が達成できたか】

☆日中働いているママがたくさん来てくれた。（金曜日の夜に設定したのも良かったと思う。）

☆駐車場を確保できたおかげで、ご近所からだけでなく、遠くから来られた方もおり、広い範囲を対象に活動することができた。

☆今回の夜会をきっかけにママ同士が繋がり、実際にママの夜会以外の場所で交流が生まれた方もいたので、本来目指している活動の目的が形になってきていると感じている。

【その他の取組：他団体との連携】

連携１

一般社団法人ぴんぽんはーと

子育てミニ講座を行ったり、お友達経由ではないママが単独で参加すると孤立しがちなので、間に入って繋げてもらった。

win-win の関係
⇔

特定非営利活動法人つながり

集まる場を設けるだけでは、ママ同士繋げるハードルが高いので、間に入ってもらい会を円滑に行えた。

連携２：江別や札幌で農家から野菜の提供や石狩の漁師からの魚、ご近所からお肉の寄付

◎事業費のうち食糧費の予算額が７万５０００円で事業の大部分を占めていたが、野菜の提供や魚の寄付をいただけたことで、結果的に２万２６１９円と予算を大幅に削減できた。

◎事業に賛同したご近所の方から何か欲しいものがあればとの声掛けに、豚のひき肉の寄付を頂いた。

【収支決算】

収入

当初予定：108,100 円 → ※当初予定より参加者が減少 → 合計 83,500 円

支出

◎おもちゃ

当初予定：9,000 円 → ※料理中に遊ぶ塗り絵、画用紙、折り紙 色鉛筆、クレヨン、シャボン玉を購入 → 2,913 円

◎花火

当初予定：10,000 円 → ※近隣住民とのトラブルになる可能性があることから、中止 → 0 円

◎食糧費

当初予定：75,000 円 → ※野菜の提供や魚や肉の寄付による。 → 22,619 円

◎会場の使用料・賃借料

概ね予定通り　13,500 円

◎印刷製本費

概ね予定通り　　5,670 円

支出合計：44,702 円
余剰金　：38,798 円
総合計　：83,500 円

◆　質疑応答

Q：栗田委員

参加者を募る際の呼びかけ方法について教えて欲しい。多く参加されても場所や食材の量の問題もあると思う。人数の調整についてどのように工夫し、課題や感じていることについても聞かせてほしい。

A：特定非営利活動法人つながり

周知はかなり難しかった。周知方法としては、主に SNS で、Instagram を利用した。また、近隣の幼稚園にチラシ、ポスターを貼ってもらい、「ぽこ　あ　ぽこ」に貼ってもらったチラシを見て来た方もいた。特に、1 回目に参加したママがお友達のママを連れて来てくれる事が一番多かった。また、10 家族で定員と設定したが、いずれも定員に届かなかったのが課題であり、今後の周知方法や法人自体の知名度の向上が課題である。

Q：新田委員

ママの夜会という事業について、新しい視点で進められていることに感銘を受けた。質問だが、食材費において工夫され、予算をあまり使わず寄付も募られたと言っていたが、この食材の寄付に関して、どのように働きかけたのか、または、先方から声を掛けられてきたのか、具体的な成果について教えて欲しい。

A：特定非営利活動法人つながり

私の個人的な繋がりや法人の繋がりを通じて声をかけて頂き、その結果、様々な寄付を頂くことができた。3 回目については、冬の開催のため、農家の方々へのお願いが難しかったが、町内への回覧等をみてこの活動を知ってくれたご近隣の方から直接声をかけて頂き、何かをするのなら寄付をすると提案して頂き、餃子を作ると言った所、豚肉を寄付すると言って頂いた。このような協力があり、食材費を大幅に削減できた。

Q：栗田委員

3 回実施したこと、食材費を抑えつつ効果的な実施をされたことは好感を持った。写真からも楽しい様子が伝わった。

質問だが、運営している NPO に関係する方の参加状況や、選考会のコメントでも指摘されていたが、主催者と参加者の関係が気になる。市民の方を対象とした事業の補助であるため、

内輪の会になりすぎないように注意が必要だと思うが、アンケート結果を見ると、参加者数がそれぞれ、7 家族、9 家族、7 家族となっている。これは同じご家族が連続して参加されたのか、別々のご家族が参加したのか、その頻度について教えて欲しい。

A：特定非営利活動法人つながり

運営スタッフは毎回 2 名で、私ともう 1 人のメンバーだった。内訳としては、内輪の会にならないように意識しており、友達や繋がりのある人も来ているが、半分以上は私と繋がりのない方だった。

Q：栗田委員

アンケート結果の人数と参加者の数についてだが、7 家族、9 家族、7 家族の参加者数に対して、アンケート回答者の大人の数がそれぞれ 5 名、8 名、6 名となっているのは何故か。

A：特定非営利活動法人つながり

QR コードを読み取って後で回答を送ってもらう方式だったが、一部の方が回答をしていなかったようだった。その結果、世帯数にズレが生じてしまった。

Q：村瀬委員

感想になるが、私は自治会の関係を担当しており、高齢化が進み、昔の向こう三軒両隣の精神が崩れつつあることが悩みの一つにある。特に、高齢の方々が長年住んでいる地域では、今後も世代の壁がますます高くなり、若い世代が非常に住みにくくなってくると思う。そんな中、若いママを対象としたママの夜会は、SNS を通じた交流が主流になっていることで、現在離れている若い世代と高齢者の交流を促す場としても有益だと感じました。

回数を重ねる事に参加者が新しい友達を呼ぶ事で増えていく波及効果があったと思うが、参加者が増えると会場の広さの問題や、広報の仕方の難しさ等を考える時が来ると思います。これからの活動を継続していく上で、クリアしなければならない難しい課題もあると思うが、広く活動を広げて頂きたい。

A：特定非営利活動法人つながり

はい、ありがとうございます。

② ＮＰＯ団体おんくりの輪
「拡がれ！おんくりフードドライブの輪」

〈事業報告〉

NPO 団体おんくりの輪は、フードドライブというご家庭で余っている賞味期限内の安全な食品を集めて、必要な方にお渡しするという活動を行いました。

今回頂いた補助金の使い道はすべて広報費となりました。開催日程をすべて記載したインパクトあるチラシを、まんまる新聞の折り込みチラシに入れて周知しました。7 月 21 日号のまんまる新聞に 5 万 600 戸、一部地域を除いて折込みしました。

このチラシを織り込んだ後、北海道新聞やまんまる新聞にも記事が掲載され、計 50 件近くの問い合わせがありました。その中で、6 件は届けられないため取りに来てほしいというもので、内容を確認した上で訪問しました。訪問先で話し相手になるだけで、食品を頂けなかった事もあり、挨拶だけして帰った事もありました。車で届けたい場合は事前連絡を受け、それに応じて来てくれた方もいました。

そのほか、届けたい食品についてのお問い合わせもあり、お米やお菓子などの質問が寄せられました。

収集した食品の状況として、缶詰のおかず系が非常に多かった。これはコロナの療養セットの中で食べきれなかった方が多く、缶詰系が多く寄せられました。一般家庭だけでなく、環境広場フードドライブ食品の提供など様々な場所からの提供があり、中には日用品や調味料も寄贈された。毎回、フードドライブの活動後には反省会を開き、次の対応について話し合いました。

アンケートの結果については簡単な集計となるが、70 代の方が多く、女性が多いことが分かったほか、1 人世帯や 2 人世帯が多く、同居家族は配偶者や親、子どもといった方が多かったです。居住地はバラバラだったが、江別市内だけでなく、新聞記事を見て遠方からも参加もありました。

利用制度に関するアンケートでは「なし」と答えた方が多く、中には生活保護を受給している方もいました。彼らの声を聞き、助かるという声もありました。食品以外にもティッシュやペーパー類が必要だとの意見もあり、今後の課題として考えています。

反省点として、本当に困っている人がどれくらいいるかの測定が難しかったことが挙げられます。ただし、そのような測定をしてしまうと、本当に困っている人が逆に行きにくくなる可能性もあるため、今回は間口を広げた形としています。3 回目の 12 月の活動では予想以上の来場者数となり、対応に追われたが、次回に向けて整理券の配布などの工夫を行いました。

アンケートの集計が難しかったことや、希望者や提供者にもアンケートを取るべきだったという反省もある。今後はおんくりの家に届けられない、受け取りに行けないという需要に対応することや、本当に困っている人に渡す方法の検討が必要。また、食以外の需要にも対応し、話し相手や居場所、日用品の提供などが求められていることも感じています。

今後の展望として、江別市内の子ども食堂や食品配布を行う団体で協議会を立ち上げ、市内の各地で食品配布と交流の場を提供したいと考えています。3 月 14 日には第 1 回の団体交流会が予定されており、20 名以上の関係者が参加する予定。江別市及び近郊地域を対象としたフードバンクの立ち上げも進められており、今後の展開が期待されている。収支については資料の通りとなっている。

【収支決算】

収入

自己資金　：　75,639 円

協働のまちづくり事業の助成金：135,000 円

収入合計：210,639 円

支出

◎消耗品（紙コップ、袋）　※別事業の余りを使用のため未購入

当初予定：7,300 円　→　0 円

◎印刷製本費　概ね予定通り　71,489 円

◎負担金　概ね予定通り　139,150 円

支出合計：　210,639 円

◆　質疑応答

Q：新田委員

色々工夫されてたくさんの人も集まってきたということで、大変な事もあったかと思うが、私からは、収集の内容の状況について質問する。一般家庭からの寄付の数は列挙されていたが、企業からの影響や

伝わり方、そして先ほど NPO 法人つながりにもお米を毎回寄付していたというのは、この寄付によるものだったのか。どのようにしていたのか教えて欲しい。

A：ＮＰＯ団体おんくりの輪

イトウ製菓株式会社は、江別市廃棄物対策課に寄贈をしたい旨の問い合わせがあり、当団体を紹介頂いた。会社の関係者が江別市内に居住していて、新聞を見て社内備蓄食品の賞味期限が切れる前に提供したいとの連絡があり、持ち込みして頂いた。また、イオン江別店との連携は、江別市を通してフードバンクをしようとしている団体に提供したいと紹介を頂き、連携することになった。お米については、フードドライブ以外でも様々な場所から寄付を頂いており、その中で、子ども食堂で使いきれなかった分をママの夜会に使って頂いた。それ以外にも市内にある他の子ども食堂にも届けている。

Q：新田委員

メディアでの広報はどのように工夫をしたか？

A：ＮＰＯ団体おんくりの輪

フードドライブ活動を行う前にラジオ番組に出演する機会があり、そこで呼びかけを行った。また、新聞の地方版にも記事が掲載され、それを見てお問い合わせを頂いた方もいた。

Q：栗田委員

反響もあり、手応えも感じながら 1 年目を過ごされたようで期待していた。楽しく、頼もしくご報告を聞いていた。今回の事業でアンケートを取ることは難しいと思うが、補助金をもらうにあたり具体的な書式や取り方の工夫が必要になる。今回の自己評価表の中に 1 回目が延べ 40 人程度、2 回目が延べ 60 人程度、3 回目が延べ 60 人程度と別途資料を頂いているが、人数の総計は全て足せば良いのか。スライドで表示されたアンケートの回答は 8 月 30 名、9 月 46 名、12 月 36 名ということで良いか。その中で世帯人数の回答項目も同じ回答数であるが、これは同一世帯の方が回答する可能性もあると思う。そう考えるともう少し工夫の余地があるかもしれない。これは協力された学生がアンケートボードを持って回答してもらう方式だったのか。

A：ＮＰＯ団体おんくりの輪

今回実施したアンケートの回答ではそのようになってしまう。今回のアンケートは、協力してくれた学生から手渡しして書いてもらっている。

栗田委員

食材提供をして頂いた方に対してもアンケートを取ればよかったと反省点に書いているので、アンケートの仕方は引き続き工夫し、なるべく実態に近いものを把握するための調査をして欲しい。

Q：村瀬委員

成果と反省の点について、ミニフードバンクになってしまったと書いてあるが、そうなってしまった

具体的な理由や、12 月の 3 回目の初日のみ大混乱があった理由など、分かれば教えて欲しい。

A：ＮＰＯ団体おんくりの輪

ミニフードバンクになった理由は、長期間チラシを持ってくれる方がおり、その期間以外は受け付けていないのかというお問い合わせを頂いた。それを受付して預かるが、渡す予定がないと溜まってしまうので、それを子ども食堂のグループ LINE で周知し、希望の場所にお渡しする等を始めている。このような動きは、フードバンクみたいだと思っているが、規模としてはまだ小さいので、ミニフードバンクのようになってきたと表現した。

12 月の初日だけ混乱した理由は、当時は理由が分からなかったが、年末や年始を控えており、灯油代など様々な理由でお金の負担があるため、その負担感が無料で食品を提供されるイベントに足を運ばせたと考えている。

Q：新田委員

リスクマネージメントとして整理券以外に何か考えていることがあるのか。また、3 月 14 日の団体交流会について、この事業をより一層広げるためにどのように活用されるのか詳しく説明して欲しい。

A：ＮＰＯ団体おんくりの輪

リスクマネージメントとして、整理券以外にも周知方法を工夫する予定で、例えば、誰でもどうぞと受け止められそうな周知をしてしまった。本当に困っている方をスクリーニングには掛けられないので、この活動の趣旨をわかりやすく伝え、自己申告になるが、必要な方にのみ提供できるようにすることを考えている。本来であれば、好きに持ち帰っていただくよりかは、セットにして 1 つずつ渡すほうが良いのかとも思っている。

団体交流会は、子ども食堂や食品無料配布団体等、私が把握して繋がっている以外の団体の繋がりを改めて作りたいと思い、当団体で準備をしている。フードバンクを中心とした、フードサポートネットワークを構築したいと考えている。そこには企業や社会福祉団体、市役所にもネットワークに入って頂き、各地点で食品を預かり、子ども食堂団体や食品配布団体に情報提供を行い、江別市全域にも活動拠点ごとのエリアに近い方々に配布できるよう展開していきたいと考えている。

●コメンテーター総評

栗田委員

2 団体のご報告を、頼もしく拝聴させて頂いた。今ある制度に対応しきれない狭間にあるニーズに対して、意欲的に新しい取り組みをされている姿勢が素晴らしいと思う。ぜひ、引き続き取り組みを続けて、成果が大きくなるように頑張って頂きたい。

村瀬委員

2 団体とも非常に厳しい世の中を乗り切るために、今の時流に合った活動をして活躍の場を広げて頂きたいと思う。特に、おんくりの輪の継続が難しいのではないかと心配している。例えば、各家庭からの提供は年々減ってしまう場合、継続性を考えると、企業をどう確保していくかがこれからの大きなポ

イントになると思う。2 団体とも、これからもますますのご活躍を期待している。

新田委員

　誰もが声をかけ合える、例えば、昔であれば味噌や醤油を貸し借り出来るような繋がりは小さなスタートから始まるのではないかと思っている。今回の取り組みがブラッシュアップされ、本当に小さな塊でもいいので、少しずつ広がっていくことが素晴らしい事になるのではないかと感じた。また、フードドライブは環境の視点もとても大きく、食料品だけでなく、衣類の廃棄も問題になってきている。一方で、お子様がいる家庭では、成長していく子どものために、四季を通して次々と衣類が必要になってくる。その時に、衣類を通じた何かしらのドライブも考えられると思う。そのようなアイディアも広がっていくと良いと感じた。大変素晴らしい内容で、今後も継続される事を期待している。